



Japan Writing Instruments
Manufacturers Association

日本筆記具工業会ニュース

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 2-30-6
TEL 03-3891-6161 FAX 03-3802-9692

発行：日本筆記具工業会 広報委員会 平成18年1月1日 17号



本工業会を通じて知識と情報を共有し、時代に対処。

明けましておめでとうございます。

昨年5月に開催された総会において日本筆記具工業会の第三代会長を拝任いたしまして半年が過ぎました。創設に尽力された初代の数原英一郎会長、二代目の西村貞一会長が本工業会の基礎を作ってくださいましたので、これをきちんと継承していきたいと思っております。どうか会員各位には変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は、総務、流通、調査研究・広報、技術国際の各委員会の皆様には活発な事業活動を行っていただきましてご苦労様でした。それぞれの専門分野で知識の共有と活用を行っていただき、業界のレベルアップが図られましたことに先ずは深く御礼申し上げます。中でも、ゲルインキボールペンの日本工業規格をISO(国際標準化機構)規格として提案する技術国際委員会の活動は、我が国の筆記具工業が国際的なリーダーシップを堅持する上でとても重要な事業で、経済産業省からも注目を集めています。私も委員会の皆さんに同行して、欧州筆記具工業会のメンバーにロビー活動をしてまいりました。また、地道な仕事ではございますが、流通委員会のお客相談窓口連絡会、技術国際委員会のJIS/ISO部会、総務委員会の会員交流促進活動等は、業界をよりよい方向にリードする確かな足跡を残してきていると思っております。

ところで、事務局から示された2005年(1-10月)の直近の統計資料を見ますと、主要4品目(ボールペン、シャープペンシル、鉛筆、マーキングペン)の出荷額(国内・輸出を含む)は前年度対比マイナス7%台という厳しい結果となりました。とくに技術的には国際優位にある油性ボールペンの出荷は約12%減、水性ボールペンのそれは約7%減という状況でした。先進各国の筆記具メーカーは、少子化とIT化によるハンドライティング離れという長期的課題に等しく頭を悩ませています。この急激なシェア変動は第三勢力である中国製品の氾濫に起因していると考えざるを得ません。

私は、昨年10月、「中国が筆記具業界に及ぼすインパクト 日本の視点」と題して欧州筆記具工業会の年次総会で講演をしてまいりまして、その中で「中国の模倣品と知的財産権侵害の実態」について改めて語気を強くして非難してまいりました。欧州のメーカーも中国製品の氾濫に強い懸念を抱いている現状でしたので、日欧が結束して模倣品製造・販売という悪しき企業行動に対処していく意志の統一が図られたと思っています。

明けました2006年は、国内経済においては地味なプラス軌道にあると予測されていますが、一方で経済のグローバル化はますます加速し、いろいろ多難なことも起きるかと思存しますが、業界一丸となって本工業会を通じて知識と情報を共有し、これに対処していきたいと思存しますので、本年も一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

日本筆記具工業会 会長 小川洋平

恒例の年末講演会・懇親会を開催

平成17年12月7日 午後5時、上野精養軒にて。



日本筆記具工業会は12月7日(水)、上野精養軒で恒例の年末講演会を開催しました。講師には内閣安全保障室の初代室長の佐々淳行氏をお招きしました。佐々元室長は20年に及ぶ警察歴任の間、ケネディ暗殺事件調査、東大安田講堂事件、連合赤軍あさま山荘事件、よど号・ドバイ・シンガポール事件等一連のハイジャック事件、連続企業爆破事件などの事件処理を指揮され、昭和61年に設置された内閣安全保障室の初代室長に就任されました。

当日のテーマは「平時の指揮官・有事の指揮官」。ご自身が果たしてこられた任務を「コンプライアンス・オフィサー(法令順守の専門家)」と紹介され、トップに代わって全責任を負うこの仕事の重大さと厳しさ、ご自身が貫かれた姿勢などを歴代の首相のエピソードを織り交ぜながらお話くださいました。講演の後、佐々元室長を中心に全員で記念撮影を行い、懇親会場へと移動を行いました。

懇親会では来賓に経済産業省(日用品室、環境生活標準化推進室)様、(財)日本文化用品安全試験所様をお迎えし、また多数の文具専門紙誌様を加え、総勢約90名が集いました。小川洋平会長の開会挨拶に続き、石川真一筆頭副会長の乾杯の音頭で開会、なごやかに懇親を深めた後、堀江圭馬副会長の手締めで2005年を締めくくりました。

【委員会・部会報告】平成17年10月～12月

流通委員会(委員長:堀江圭馬副会長)

<流通小委員会>10/5

個人情報保護法に関する勉強会を実施した。

<流通委員会>12/21

RoHS指令対応「特定化学物質含有情報シート」に関する工業会統一様式について、ボールペン部会とお客様相談窓口連絡会での検討内容を報告した。

個人情報保護法に関する各社対応について情報交換を行った。

お客様相談窓口連絡会活動状況報告を行った。

<お客様相談窓口連絡会>12/1

各社のお客様対応例について意見交換を行った。

調査研究・広報委員会からの要請により、工業会HP「お役立ち情報/マーキングペン編」の内容について検討、調整を行った。

RoHS指令対応「特定化学物質含有情報シート」に関する工業会統一様式について意見交換を行った。

調査研究・広報委員会(委員長:石川真一副会長)

ホームページ「お役立ち情報/マーキングペン編」の内容について、10/25、12/20の両日に会議をもち検討を行った。

技術国際委員会(委員長:数原英一郎副会長)

<ボールペン部会>10/7

フランクフルトで開催された欧州筆記具工業会技術小委員会(EWIMA Technical Subcommittee)についての報告。

・ゲルインキボールペン規格ISO提案の件。小委員会にて日本案は良く理解され大筋において各委員の了解を得られた。現在、提起された若干の調整を行っている。

・小委員会にて「REACH規則について」情報収集した。

(REACH規則とは:化学物質登録評価許可規則(Regulation concerning the Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals)の略。EUによる化学物質を登録、評価、認可するための統合的の制度。この規則では、化学品の各国管理を欧州化学品機構へ一元化することが目的であるが、評価は加盟各国、許可は共同体と加盟国自身が行う=経済産業省用語集より=)

JIS S 6039及び6054改正案の最終校正を提出した。

筆記試験用紙の中性紙化(第1回)の件。6社の試験結果の概要が提出された。今回の中性紙に変更しても差し支えないと回答したのは4社、変更賛成できないと回答したのは2社であった。継続した検討することにした。

RoHS指令と電機業界の動向、筆記具業界の対応について。RoHS指令は2006年7月から発効するが、これに伴い電機業界から筆記具用インキの環境負荷物質のデータ提出要請が増加しているため、業界として統一した対応策を考える方向で調整に入った。

(RoHS指令とは:電気・電子機器への有害物質の使用制限指令(Directive on the Restriction of the use of certain Hazardous Substances in electrical and electronic)の略。2003年2月13日にEU指令として発効。電子・電気業界は2006年7月以降に販売される製品について、現在製品に使用している鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、臭素系難燃剤のポリ臭化ビフェニール(PBB)およびポリ臭化時ジフェニルエーテル(PBDE)を使用停止し、代替物質を調達しなければならない。ただし、代替物質がまだ開発されていないものについては例外措置が認められている。この措置は2005年2月15日までに欧州委員会が見直しを行い、科学技術の進歩に応じて変更が提案される。例外措置は4年ごとに見直しが行われる=経済産業省用語集より=)

11/9

ゲルインキボールペン国際規格提案に関して、次の事項を協議した。・ボール直径の細分化について、・形式記号について、・表示について、・その他修正箇所、・今後の予定について(2006年1月に国際規格適正化事業委員会を開き、国際規格申請の準備を行う。次回のEWIMA技術委員会は2006年1月27日の予定)

RoHS指令対応について。「特定の化学物質含有情報シート」について、内容を検討。各社持ち帰り内容を検討することにした。

筆記試験用紙の中性紙化の検討について継続協議した。他。

<事務用修正液JIS・ISO部会>10/21

JIS S 6055「事務用修正液」規格見直しについて。同規格は2002年に改正され2007年が5年見直しの時期になる。改正が必要な場合、2006年に改正作業を行い、2005年10月末までに方針を

決定する必要があるが、基本的には改正の必要なしとの結論に達し、「追補」の形で提出する予定。修正テープの取り扱いについて。事務用修正液の規格の中に修正テープを組み込むのか否か継続的に検討することにした。また、事務局を通じて経済産業省日用品室に寄せられた修正テープに関する苦情等を調べ、この規格化の必要性があるか検討することにした。

<マーキングペンJIS・ISO部会>10/26

ホワイトボード用マーカー業界基準作成に関して、旧JIS S 6056:1994/ほうろう白板用マーキングペンの内容を基に「削除」、「追加」等規格内容について本工業会の意見集約を図った。

全国黒板工業連盟を交えホワイトボード用マーカー基準に関して協議した。検討した項目は、・消去後の消し跡(ゴースト)について、・対象とするボードについて、・復元性について、・VOC規制物質(6物質:ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、p-ジクロロベンゼン、エチルベンゼン、スチレン)に関して、・表示について、・その他、追加質問・審議事項、他。

12/21

JIS S 6037改正案の工業標準調査会審議結果についての報告。

・JIS規格番号の原則表示の指摘について。新JISマーク制度での規格番号表示について検討した。結論として、油性ボールペン、水性ボールペンJISと同様に規格番号「JIS S 6037」とする案で各社協議に入った。

・消費生活技術専門委員会での指摘事項に関して。色覚障害の方でもわかるように容器に色名を表示されたしとの指摘について審議した。

安全キャップに関する件。油性マーキングペンに安全キャップの規定を導入されたしとの要望があり各社協議に入った。

筆記具お役立ち情報に関する件。マーキングペンの資料について各社協議に入った。

全国黒板工業連盟と本工業会との打ち合わせに関する報告。

JISC「消費生活技術専門委員会」審議終える

昨年12月13日、JIS S 6039(油性ボールペン)、JIS S 6054(水性ボールペン)、JIS S 6037(マーキングペン)の改正原案についてJISC「消費生活技術専門委員会」での審議が行われ、次のような指摘事項はあったものの、3件とも可決され平成18年3月20日発行予定となりました。審議の中、「特に意図がなければ、新JIS制度においては規格番号の表示を原則としたい。」との指摘があり、3件ともそれに従い、表示要件に「規格番号(必要に応じて表示する。消費者包装単位ごとに行ってもよい。)」を記載する案を提出しました。

総会のご案内

「第5回通常総会」は18年5月16日(火)午後5時から上野精養軒にて開催いたします。総会終了後、懇親会を実施します。ご参加をお待ちしています。

2005年7～9月の出荷・輸入・輸出

繊維・生活用品統計(国内向け販売と輸出向け販売を含む)

(金額はすべて百万円)

出 荷	単位	2005年7-9月度		2004年7-9月度		前年変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン(油性)	千本	104905	5884	106379	6897	-1.4%	-14.7%
ボールペン(水性)	千本	174167	7095	183691	7781	-5.2%	-8.8%
マーキングペン	千本	176778	8851	174847	9223	1.1%	-4.0%
シャープペンシル	千本	40287	3194	51967	3972	-22.5%	-19.6%
鉛筆	gross	482370	1496	474138	1445	1.7%	3.5%
シャープしん	千本	657315	1078	739425	1263	-11.1%	-14.6%
修正液	千本	10698	916	11707	1046	-8.6%	-12.4%
修正テープ	千個	22925	1791	20783	1844	10.3%	-2.9%
クレヨン・パス	千本	17011	245	17814	235	-4.5%	4.3%
水彩絵の具	千本	15524	696	16414	728	-5.4%	-4.4%
合計金額			31246		34434		-9.3%

日本貿易統計

輸 出	単位	2005年7-9月度		2004年7-9月度		前年変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン(油性)	千本	55069	1888	52563	1928	4.8%	-2.1%
ボールペン(水性)	千本	146139	6242	142895	5926	2.3%	5.3%
マーキングペン	千本	77168	3201	79815	3364	-3.3%	-4.8%
シャープペンシル	千本	25894	1480	34225	1760	-24.3%	-15.9%
万年筆	千本	844	203	1916	211	-55.9%	-3.8%
以上のセット品	千本	278	34	185	33	50.3%	3.0%
黒しん鉛筆	gross	22100	55	28848	63	-23.4%	-12.7%
色しん鉛筆	gross	4586	21	8449	24	-45.7%	-12.5%
ボールペン用中芯	千本	41825	690	45892	618	-8.9%	11.7%
マーキングペン用ペン先・ゴブポイント	千本	1022012	1959	964774	1613	5.9%	21.5%
シャープ部品・付属品	Kg	78753	279	40530	219	94.3%	27.4%
万年筆・ボールペンの部分品	Kg	383435	1087	379668	1018	1.0%	6.8%
シャープしん(鉛筆しん含む)	Kg	385104	481	87915	486	338.0%	-1.0%
クレヨン・パス	Kg	38476	116	36441	84	5.6%	38.1%
合計金額			17736		17347		2.2%

日本貿易統計

輸 入	単位	2005年7-9月度		2004年7-9月度		前年変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン	千本	53922	1684	51365	1480	5.0%	13.8%
マーキングペン	千本	53669	820	44494	711	20.6%	15.3%
シャープペンシル	千本	9671	277	8951	247	8.0%	12.1%
万年筆	千本	274	333	98	323	179.6%	3.1%
セット品	千本	350	25	708	37	-50.6%	-32.4%
黒しん鉛筆	Kg	124959	95	103171	89	21.1%	6.7%
色しん鉛筆	Kg	233067	165	272102	210	-14.3%	-21.4%
ボールペン用中しん	千本	4566	47	7649	58	-40.3%	-19.0%
ペン先及びゴブポイント	千本	28685	76	35234	114	-18.6%	-33.3%
ボールペン又はシャープの部品・付属品	Kg	254092	598	211604	494	20.1%	21.1%
ペン軸、その他の部分品	Kg	45674	73	40993	54	11.4%	35.2%
しん	Kg	81089	88	90125	79	-10.0%	11.4%
パステル・チョーク	Kg	317103	144	270015	108	17.4%	33.3%
合計金額			4425		4004		10.5%